

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年2月14日

【評価実施概要】

事業所番号	1072100488
法人名	有限会社 ミヤマ
事業所名	グループホーム 三山ホーム箕郷
所在地	群馬県高崎市北原町380番地1 (電 話) 027-372-8676
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成20年2月8日

【情報提供票より】(19年 12月 20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 10 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 12.9 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨ヘーベル 造り
	2 階建ての 階 ~ 1, 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	18,000円(水道高熱費)
敷 金	有(円) 〇 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 〇 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4)利用者の概要 (1 月 20 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	7 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 83 歳	最低 74 歳	最高 93 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	戸塚医院 田中歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは既存の建物を活かし設立されている。ホーム内の構造上で階段や勾配がある。この点を活かし管理者と職員は、安全面に配慮しながら利用者の身体機能の維持、向上や低下の抑止に努力を行っている。法人代表者の事業所に対する思いを理解し、ホーム長、管理者、職員は運営理念を共有し熱意を持って利用者の生活支援に取り組んでいる。利用者の「笑顔」、職員も「笑顔」を忘れずに、利用者一人ひとりの思いや意向を大切にするケア実践に取り組んでいる。利用者、職員は一緒に地域との交流や外気に触れる機会を多く取り入れて、利用者の生活にメリハリと気晴らし、楽しさをもたらす取り組みをしている。事業所での実践内容を踏まえて、地域住民に認知症ケアの啓発に努めるなど地域貢献も行っている。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	季節感のある装飾や利用者の作品等が利用者の見当識に混在を招きやすい環境であったが、全職員で話し合い整理がされ、見当識の補強が望まれる取り組みがされていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、職員会議で話し合い自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	事業所から報告を行い、参加者から意見や要望を聴いている。参加者から地域情報の提供、認知症についての講話をする等の要望があり行っている。会議のあり方について、事業所から提案し意見を求め活発に意見交換が行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議には家族の代表者に参加してもらっている。ホーム便りを発行し日頃の暮らしぶりを報告をし意見や要望・苦情等を聴き、アンケート等も行って、職員で話し合い運営に反映をさせるようにしている。結果については文章で報告をしている。家族訪問時には何でも言いやすい雰囲気作りに特に留意している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の清掃活動、ボランティアの受け入れ、地域の施設利用、散歩時に挨拶を交わす、近隣者から野菜を頂く、事業所の納涼祭に招待をし参加をしてもらう等、地域交流を利用者と職員と一緒に図っている。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域住民との交流と事業所から地域に還元することを盛りこんだ、事業所独自の運営理念を話し合われ掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議等で運営理念に添って、日々のかかわりの中で利用者一人ひとりの対応を常に話し合い共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の施設(温泉施設、福祉センター、高校等)に行く、地域の清掃活動、ボランティアの受け入れ、散歩時に挨拶を交わす、近隣から野菜を頂く等の付き合いがある。また、事業所の納涼祭に地域の方を招待し多くの方の参加がある、小規模多機能について地域の方に説明する等を行い交流をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を職員に伝え、職員会議で話し合い自己評価に取り組んでいる。前回の評価について話し合い、改善する取り組みがなされていた。季節感のある装飾や利用者の作品等が、利用者の見当識に混在を招きやすい環境であったが、整理がされて見当識の補強が望まれる取り組みがされていた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所から報告を行い、参加者から意見や要望を聴いている。参加者から地域情報の提供、認知症について地域の方に講話をする等の要望があり実施している。会議のあり方について、事業所から提案し、意見を求め活発に意見交換が行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者と共に書類の提出等に出かけるなど、窓口を訪れ交流を図るようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを月1回発行している。個別に日頃の暮らしぶりや状態等を担当者が記載、写真を貼る等をして送っている。また、訪問時にも報告をしており、必要に応じて電話でも行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表者に参加をしてもらい意見や要望を言ってもらっている。訪問時には、何でも言ってもらえる雰囲気づくりにも留意している。アンケート等も行い苦情に関しては、職員会議で話し合い運営に反映をさせている。また、結果については文章で報告をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者へのダメージを防ぐために新入職者にはボランティア期間を設け利用者や事業所に馴染めるようにしている。また、管理者、先輩職員が利用者と馴染みの関係を築けるように支援をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は経験に応じて研修には参加をするようにしており、職員会議報告を行い共有をしている。資料の閲覧はしてある。研修内容を実践に活かすようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、研修に参加をし交流をしている。交換研修やイベントには近隣の事業所に声をかけて参加をしてもらい利用者と職員の交流を図っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に見学をしてもらい、事業所の建物構造上の説明をし、理解をしてもらっている。また、利用者・職員と共にお茶にする等して雰囲気に馴染んでもらっている。入居になってからは家族の協力の下で安心して生活が送れるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	裁縫、書道、行事食、きんぴらごぼう、お切り込み等で教えてもらう場面が多くあり感謝の言葉を互いに交わす関係が築かれている。また、そういった場面作りにも配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や日々のかかわりの中で把握するように努めている。意思疎通困難な場合は表情、言葉、行動から意向を把握するようにしている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の思いや意見を聴き、反映をさせるようにしている。アセスメントを含め担当者の気づきを基に話し合い、意見交換を行い介護計画に反映をさせるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	新たな要望や変化がなく安定している場合でも月1回のモニタリングを行っている。定期の介護計画の見直し設定期間(6ヶ月)と状態の変化に応じて随時の見直しを行っている。	○	新たな要望や変化もなく安定をしている場合でも月1回モニタリングを行っているが、本人や家族の思いや要望を確認し、職員の情報や気づきを基に定期の介護計画の見直しの期間の短縮の取り組みをしてほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の受診やその他の受診(歯科、皮膚科、眼科等)の介助、送迎、買い物、入院手続き、面会に行く等、本人・家族の要望に応じて柔軟に支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の要望するかかりつけ医になっており、受診や通院は本人・家族の希望に応じて対応をしている。協力医から月2回の訪問診療が受けられている。どちらも気軽に相談や助言が受けられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合(飲み込みが困難、医療的処置等)について家族に説明をし、事業所の方針を伝えている。状態の変化に伴いその都度、かかりつけ医、家族、事業所等で話し合い納得の行く支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議で日々のかかわりを振り返り職員の意識向上を図るようにしており、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調や本人の気持ちを尊重して、無理強いするのではなくできるだけ、利用者の意思で決められるようにし個別性のある支援をするようにしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が共に準備や片付けをして、職員は同じテーブルを囲み食べて楽しい雰囲気づくりにも配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のその日の希望や気分に応じて支援をしており、夜間入浴も希望に応じて対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、片付け、掃除、洗濯物を干す、畳む、テーブルを拭く、裁縫、編み物など役割を利用者一人ひとりの力量に応じて行なってもらっている。映画鑑賞、手作り弁当を持って温泉に行く、行事の外出等の機会を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の状態に応じて外気に触れるように、毎朝、庭でラジオ体操を行なう、散歩、季節の花見や果物狩り、お弁当を持って外出など、戸外に出かける機会を多くするようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵はかけずに、職員の見守りで出かけようとする時は一緒について行くするなど、安全面に配慮して自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力の下で、年2回利用者と職員は避難誘導と消火訓練を行っている。地域の協力体制は運営推進会議で協力依頼をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとり一日の食事や水分量を大まかに把握はしているが、食事量が少ない時のみ記録をするように統一されている。	○	一日の食事や水分量は把握をしているが、摂取状況を毎日チェックし記録に残して職員が情報を共有するようにしてほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご飯の炊ける匂い、食事の準備の様子、食器を洗う音、お茶がいつでも飲めるようにポットが置いてある、ソファコーナー、季節の花が飾られており、居心地よく過ごせる環境になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、ソファ、飾り物(お雛様等)、若い頃の本人の写真、お気に入りの衣類、衣装箱等が持ち込まれて個性ある居室になっている。		